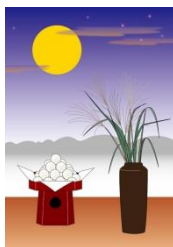


たんぽぽ



本物の「太鼓の達人」だ！



北里大学病院小児病棟では、病院奉仕団の学生さんによる「夏まつり」を毎年実施しています。

北里学級は「トトロのトンネル」「太鼓の櫓(やぐら)づくり」で参加しました。

集めてきた段ボールを使って丈夫な柱や屋根を作ったのは中学生。大きな刷毛で色を塗るときは小学生も一緒に参加しました。

当日は、「月夜のポンチャラリン」に合わせて

当日の進行はすべて奉仕団のお姉さんやお兄さんにお任せして、夏らしく爽やかな気分を味わうことができ、入院している子どもたちや保護者の方にとって、大切な思い出になりました。

2学期始業式を実施

北里学級2学期始業式は、設置校である双葉小と麻溝台中の校長先生や相模原市教育委員会が列席して9/4におこなわれました。病院からも小児病棟看護主任や医師が参加し、子どもたちに励ましの言葉をかけていただきました。

夏から冬まで三つの季節が通り過ぎる2学期を、病院の中で迎えることになった子どもたちにとって「友だちや先生がいる学校が、病院の中にもあった！」と感じてもらえるように、北里学級は子どもたち一人一人を大切に、入院をマイナスイメージだけで終わらせないために、毎日のふれあいを大切にしています。



病気や怪我によって一緒に過ごした仲間が、ここで2学期を迎えられるなんて感無量です。(小児病棟 平林看護主任)

入院して「何で僕だけなの？」って思ったかも知れないけど、乗りこえられる人にだけ与えられたチャンスだと思ってください。(小児病棟 白井医師)

ここで過ごす時間を大切に。素敵な思い出を作ってください。(双葉小 米澤校長先生)

辛い経験をした人は、次に学校に戻る時、仲間を大切にできる人になります。(麻溝台中 徳田校長先生)

いろいろな不思議に出会うことによって、自分の世界が広がります。(教育委員会 中島指導主事)

「子供や家族の精神的支援」～県病研研究大会～

神奈川県病弱虚弱教育研究会(県病研)の研究大会が7/26に横浜市立浦舟特別支援学校で行われ、北里学級からは、子供が安心して院内学級で過ごせるよう病院と情報交換を密に行い、在籍校と連携して退院後の復学がスムーズに行うこと目指した事例を発表しました。

また国立特別支援教育総合研究所の先生方より「病気のある子供のアセスメントと支援・配慮の考え方」についてご講演いただき、病気の子どもやご家族をどのように支えていったらいいのか、院内学級の役割についてあらためて学ぶことが出来ました。